

# 農業ボランティアと ともに働く

### 今回のキャスト

社長 藤田 匠、社員 西園寺 千代、農主 高橋 八朗

働く意識が変わってきている。ボランティアの活発化もそのひとつ。農業現場でも、単なる人手不足解消だけにはとどまらない大きな意味が秘められているのではないか。

千代 そういえばお昼に電話があった越谷大学の柴田くんって、ボランティア希望の方ですか？

藤田 そうそう、道の駅でうちの野菜のポップを見て、連絡してきたんだ。バイト希望じゃないんだって。教育学部の2年生で、将来理科の先生になりたいらしいんだよ。でも、植物は好きだけど、これまで畑で土に触れたことがないので、体験してみたいんだってさ。

千代 農学部ではないんですね。農業経営したいわけではなくて、先生ですか。でもその動機って、なんだかいいたいですね。ただどこまでお願いしていいのか？ バイトともパートとも違うし、楽しんでもらいながら

も作業も進めたいのが本心ですね。藤田 そうだよな、両立って難しい。でもできれば収穫や播種の体験はしてほしいな。やっぱり「遊び」というより、ある程度「真剣」にやるなかで楽しさを感じてもらいたいから。来週の木曜日に友達を1人連れてくるよ。1時から15時までだから、ご飯もみんなで食べよう。大筋のプログラムは組んであげたいね。

千代 高橋さんの農園もボランティアの人がひんばんに来てますよね。Twitterでも毎月1回ボランティアメンバーの集まる場をつくって募集しているし、話聞いてみたいですね。

## ボランティアをどう集めるか

埼玉県越谷市、せんげん台駅から徒歩30分ほどの場所にある、私たちの畑。運営の主力はボランティアメンバーです。毎週新しい応募があり、農大出身のメンバーもいれば初めて

高橋 うちの越谷大学の4年生の農業応援サークルが中心になってボランティアを募っていて、作業プログラムも組んでくれてるんだよね。だから私はあまり首は突っ込んでないんだ。ただ毎月やっているから作業内容も違うし、参加者は固定してくるから、徐々に作業も覚えてくれるし。なによりうちの社員が毎回張り切って準備してて、楽しそうなんだよね。明るくなったよ、農園全体が。千代 農園にもいい効果があるんですね。確かに明るい空気感になりそう。今回のボランティア希望の柴田くんが楽しんでくれて、定期的にきてくれるように、プログラムを組みたいと思います。

今回の執筆者  
おいた はつみ  
矢尾板 初美

(有)人事・労務パートナー/  
行政書士/  
903シティアーム  
推進協議会委員長



明治学院大学国際学部卒業後、総合物流会社を経て行政書士として独立。NPOの設立支援や運営サポートなどコミュニティ創りを支援している。次代に持続可能な農と食を残していくため903シティアーム推進協議会を自ら設立。次世代の農業経営者を応援する「ローカルとつながる田心マルシェ」も開催。

畑に立つメンバーもいます。そんな10代から50代の背景も様々なメンバーが、都内そして千葉や埼玉など近隣のまちから、毎週畑に集ってきています。そんな運営の形をお伝えすると、必ず聞かれる質問があります。「どうやって人を集めているのか？」  
2020年10月号では「フリーランスファーマー」という言葉をあげ「業務委託」について解説しましたが、今回はボランティアを含めた、



【activo】 <https://activo.jp/articles/78797>

ともに未来を創っていく仲間が集い方について、実践例を交えてお伝えします。

## ボランティア 応募サイトを活用

ボランティア募集にあたり、現在一番活用しているサイトが【activo】です。毎週新しい応募があり、この1年間で延べ200名ほどの応募がありました。応募後、全員連絡がつくとはいませんが、おおよそ4分の1ほどのメンバーが実際にともに活動します。動機も背景もそれぞれですので、その時々で個々に関わ

り方が異なります。

媒体は時代とともに変わり、ときに複数の媒体を同時並行しながら、現在に至りました。3年前ほどに活用していたのは「ジモティー」です。

最近では、HP（おおよそ半年前にボランティアメンバーが作成したサイト）からの応募も出てきました。

多くのサイトが会員登録するだけで、無料で募集可能（有料プランもあり）。応募したい方も、まずはサイトをのぞいてみてください。必要最小限の表現であれば、選択項目をチェックするだけで、ほぼ応募が完了します。

情報がストックされるHPが一枚あることの意義を改めて感じるところですが、前述したactivoにはwebページ作成機能もあり、必要に応じて活用してみたいかができるでしょうか。

## 自分たちが出会いたい！ 人物像と想いを表現する

文言はもちろん大切ですが、文言での表現が難しい場合には、自分たちが出会いたい人物像に近い写真を多く掲載することで、思いが重なる仲間に会える確率が高まります。例えば「一日でも早く農業のプロフェッショナルになりたい人」「農業アルバイト」は私たちのものには

来ません。全員ボランティア。農と食を通して次代に残したい「つながり」を創っていく。自然のリズムと自分らしさを大切にしながら「つながり」の中で働くこと・生きることって楽しい。そんな思いに共感できる仲間に出会いたい。

もしアルバイトのような応募があったとしても、挨拶のメールや電話の際に、私たちの思いを改めて伝えて、互いが場に求めることに大きな相違がないかを確認し合います。

誰でも募集をかけることができ、誰でも気軽に応募ができる。これもサイトの特徴です。多くの応募があつたからといって、思いが重なる方ばかりとは限りません。背景も関心の度合いもそれぞれです。

この互いに相違がないかを確かめ合うプロセスは、多少の時間を要しますが、後々のチームの混乱を防ぐ、大切なプロセスだといえます。

もし応募者の大半が、自分たちが出会いたい人と異なる場合は、掲載内容を変更してみてください。

私たちの農園は法人ではなく、いわゆる任意団体（903シティファーム推進協議会）ですので、当然ですが社会的な信頼を得るまでのハードルが多少高くなります。そのため、募集記事のほか、自分たちの団体情報（理念や活動内容・活動実績）を表現することを意識しました。自分たちがやってきたことを写真付きで掲載しています。

例えばactivoは月間150万回ページが閲覧されるサイトですので、サイトへ記事を掲載するだけで、インターネット検索で見られる可能性が高くなります。

事業者として、まずは知ってもらう。無料・フリープランで、十分にその効果を感じることができそうです。ぜひお試しください。

## ボランティア 活動証明書の発行

自分らしく社会に貢献していきたいと考える若者が増えています。そんな彼らに機会を提供しようとお考えでしたら、「ボランティア活動証明書を発行します」と明記いただくことをお勧めします。

背景としては、2020年から始まる大学入試改革で、大学入試において「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を評価基準に加える、とされました。企業においてもボランティア休暇制度を設ける事例も出てきました。

ボランティアは、学生のみならず社会人にとっても、確かに大切な基準です。

そんなときに「ボランティア活動証明書」があることで、スムーズな応募の流れにつながります。必要に応じて、ご活用ください。